令和４年度　第４回青森市子ども会議

１　日　　時　令和４年７月２３日（土）　９時００分～１２時００分
２　場　　所　青森市総合福祉センター２階　大集会室
３　出 席 者　会場参加：子ども会議委員１６名、子どもの権利擁護委員３名、事務局３名
４　活動内容　（１）子どもの権利に関する講義（講師：沼田徹委員）
（２）グループワーク（講師：沼田徹委員、小林央美委員、関谷道夫委員）

５　開催概要

夏休みに入って初めての子ども会議は、子どもの権利についての講義を受けた後、子どもの権利に関わるグループワークを行いました。

子どもの権利に関する講義

はじめに、子どもの権利擁護委員の沼田徹弁護士から子どもの権利に関する講義として、「沼田校長先生が作った新しい校則をやめさせるために校長先生を説得するためのカードや材料を手に入れよう」をテーマに、私たちに身近な「校則」を絡めたお話をしていただきました。

〈沼田校長先生が考えた新しい校則〉
１　くつ下の色を男子は白、女子は黒以外を認めない。
→校則に理由は必要ない。ルールを守ることそのものに意味がある。
２　夏の間、男子の髪型は全員丸刈り、女子は全員ショートカット。
→理由：夏の熱中症を予防し、暑さに負けず学習や運動に集中できるようにするため。

次に、グループに分かれて、沼田校長先生を説得するためのカードや材料について話し合い、沼田校長先生に発表しました。

〈グループワークで出た意見〉
・「校則に理由は必要ない。」と言うが、ルールを守って欲しいなら守るべき理由を示さなければいけないと思う。
・必要があるルールを作り、それを守ることに意味があると思う。
・男女でこうしなけばいけないと分けた校則を作ることは、男の子の気持ちを持った女の子もい

るし女の子の気持ちを持った男の子もいるので、ジェンダーレスと言われているこの時代にそぐわないと思う。

・熱中症を理由に髪型に制限をかけているが、髪型は個性であり、自分らしく生きる権利を侵害されている。

・校長が勝手に自分の意見だけで新しく校則を決めたことがよくない。子どもにも意見を表明し参加する権利があるので、１度みんなで話し合う場を設けるべきだと思う。そして、その場で出た少数意見も尊重しなければいけない。

・この校則は、個性と尊厳を無視し強制しているので憲法に違反していると思う。

・“子どもでも言いたいことを言える”ということが大事なのに、自分の意見を伝えることができなければ、不登校につながると思う。

〈沼田校長先生からの回答〉

・男女で分けているのは、学校の乱れはまず女生徒からというデータがある。

・一年中髪型の制限をしているのではなく、夏の間だけ規制しており、熱中症にならないようにという生徒の安全を守る校長としての責務を果たすために作った校則である。

・また、個性は外見ではなく中身だと考えている。

各グループからの発表を受けて

〈沼田委員からの回答〉

・「そのとおり！」と思うような内容ばかりで、説得されました。

・ルールの合理性というように、「髪を短くすることで熱中症にならなくなる」というような科学的根拠が本当にあるのかなど、そのルールが適当な手段になっているのかが重要である。

・今日のように論破ではなく、対話を意識してほしい。沼田校長は説得できなかったが、意見を言い合う中で、自分の考えを変えたり、相手を説得できたりするようになる。

・子ども会議委員には理不尽なことは「理不尽だ！」と言えるようになってほしい。

グループワーク

次に、年齢別に分かれて子どもの権利に関するグループワークを行いました。各グループのファシリテーター役として３人の子どもの権利擁護委員に入ってもらい、お互いの意見を出し合いました。

トークテーマは「困った」「いやだ」「はずかしい」「大人に伝えたいこと」「こども家庭庁への期待」や「子どもが意見を出しやすい環境にするには？」などで、事前に考えてもらった内容をもとに話し合いました。

〇小５・小６グループ

・スクールカウンセラーやクロームブックなど、相談できる環境はあるが、気軽に相談してよいか心配。行きづらい。
・先生に「理由」を説明しても「言い訳」としか捉えてもらえない。
・全体が怒られているとき、何か意見を言おうとしてもさえぎられて聞いてもらえない。
・友達に否定されることが多く、自分の良さを見つけられない時期があった。自分に自信が持てるようになればいい。
・ひとりが悪いことをすると、全体の責任にされ、ルールがどんどん厳しくなる。
・宿題の直しで中休み、昼休みがなくなってしまう。休み時間は遊んだり休憩したりしたい。
・「困った」「いやだ」「恥ずかしい」を「うれしい」に変えられたらよい。自分にとってプラスになるようにしたい。

〇小６・中１グループ

・学校の教育が不平等だと思う。（例：先生の対応が子どもや、その時々で異なることがある。）
・通学路とかの道路で凹凸がすごい。足が取られて転びそうになるし、歩道がない道路でもそういうことがある。
・小学校は集団で検定を受験できないのが不満。
・消費税高い！
・悩みや不満などの声を拾ってくれる社会をつくってほしい。
・大人に意見を言うのは難しい。
・子どもたちの困ったことや悩みごとを解決してくれたら、話しやすくなる。
・陽気なキャラクター（明るい、元気で、ポジティブな人）がいっぱいいる場所だったら口も軽くなって話しやすくなると思う、明るくて話せる空気があれば良い。

・担任（教師）には相談したくない！
・友だちには相談できる→友だちは増やした方が絶対良い！
・子どもだって考えているから、15 歳くらいまで選挙権が下がれば良い。そしたら子どもも社会の一員だって考えてくれそう。→小学生には憲法とかまだ難しい部分もある。

〇中３・高校生グループ
・子どもは守られる存在ではあるけど、自分が持っている“責任”についてきちんと考える必要がある。他の人に迷惑をかけない。
・クラスで１人でいる子のことを考えてほしい。自分の居場所がわからなくなって体調が悪くなってしまう。
・先生や親など目上の人ではなく、同じ年の子でも、自分が意見を伝えても聞いてくれないことがある。自分の話を聞いて欲しい。
・友達に兄弟の面倒を見ている子がいる。ヤングケアラーに対する支援をして欲しい。
・政府が子どもに対して様々な援助をしているが、あまり深く関わって欲しくないと思う子もいると思うので、どんな援助をするのかではなく、どこまで干渉していいのかを考えたほうが良いと思う。

最後に、子どもの権利擁護委員から一言ずつ講評をいただきました。先生方からは、「良いグループワークだったと思います。勇気を持って意見を言ってください。」「子どもたちでもいろいろな考え方があることが分かりました。自由に討論して、新しい意見や好きな意見を出してください。」「みんなしっかりと意見を出し合えていたと思います。勉強になりました。皆さんがどんどん意見を表明していくことが子どもの権利の充実につながると思います。」と激励をいただきました。